香芝市の学校の適正規模の基準について（案）

令和7年5月23日

◆望ましい学校環境を整備するための基本的な考え方

- 1 各学年においてクラス替えができる複数の学級を確保することが望ましい。
- 2 児童生徒が集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせるためには、一定の学校規模を持つことが望ましい。
- 3 経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置するためには、一定の学校規模を持つことが望ましい。

◆望ましい学校環境を整備するための基本的な考え方を前提とした基準案

1 望ましい学校規模

・小学校

小学校では、多様な人間関係を築くうえでクラス替えを可能とし、また同学年に複数教員を配置するうえで各学年2学級から3学級、全学年で12学級から18学級とする。

・中学校

中学校では、教科担任制であることから、生徒の学習等に影響がないよう、全教科に十分な教員配置を行う必要性や、多様な部活動を可能にする上でも一定数の生徒と教職員を確保する必要があるため、各学年4学級から6学級、全学年で12学級から18学級とする。

2 望ましい学級規模

・小学校

1学級あたりの人数は24人から35人とする。

・中学校

1学級あたりの人数は24人から35人とする。

◆小中学校の再編を検討する条件例

1 小学校

- ・各学年の学級数の過半が単学級となり、人口予測等から数年にわたって同じ状況が続くことが明らかな場合。

2 中学校

- ・各学年の学級数の過半が2学級以下となり、人口予測等から数年にわたって同じ状況が続くことが明らかな場合。